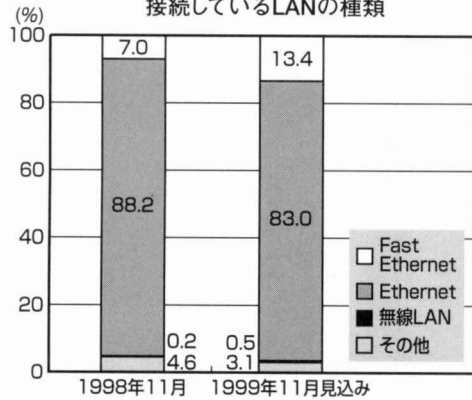


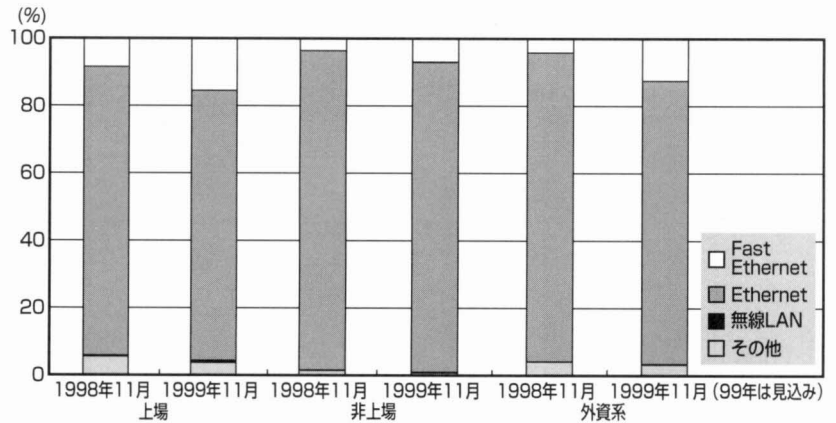
FastEthernetへの移行進む

資料2-1-11 クライアント端末を接続しているLANの種類



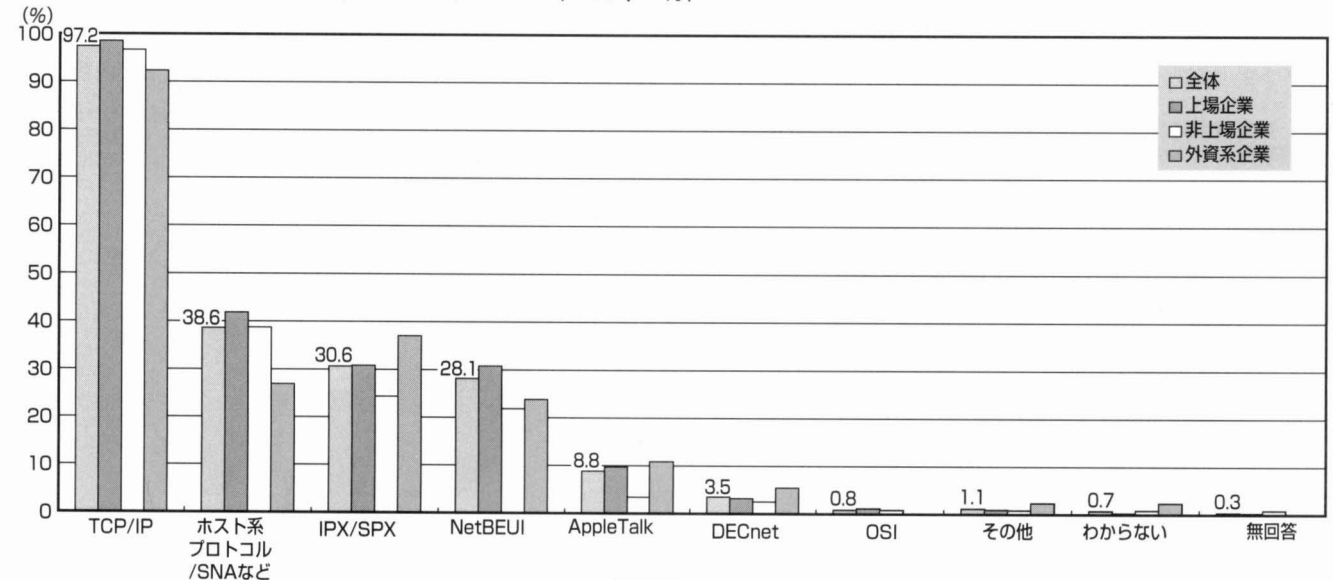
出所 『日経マーケットアクセス』
<http://www.nikkeibp.co.jp/MA/>
 99年4月号を元に作成

資料2-1-12 クライアント端末を接続しているLANの種類(上場・非上場・外資系)



出所 『日経マーケットアクセス』<http://www.nikkeibp.co.jp/MA/> 99年4月号を元に作成

資料2-1-13 LANに採用しているネットワークプロトコル(1998年11月)



出所 『日経マーケットアクセス』<http://www.nikkeibp.co.jp/MA/> 99年4月号を元に作成

解説

コンピュータにインストールするネットワークインターフェイスカード(NIC)やハブ、スイッチングハブなど、LAN製品は1年前とは比較にならないほど安くなっている。そのため、これまでは10MビットのEthernetの導入を考えていた組織が、それとほとんど同じ予算で100MビットのFastEthernetの導入が可能となった。

FastEthernet用NICは、そのほとんどが10MビットのEthernetにも利用できる両用タイプの製品である。また、カテゴリ5という品質のEthernetケーブルを利用していれば、それをそのまま100MビットのFast Ethernetにも利用できる。ハブの中には10Mビットと100Mビットの両

方のスピードに対応したデュアルスピードハブもあり、10Mビットのハブをそのまますぐに置き換えることも可能だ。つまり、10MビットのEthernetから100MビットのFastEthernetへの移行は、容易に行なえることになる。98年後半から数か月の価格低下により、現在のLANの導入は100MビットのFastEthernetが中心になりつつある。この現象は、今後も続くものと予想される。

また最近では、スイッチングハブの価格も低下傾向にあるので、これからはより高機能な機器の導入が進むことになる。

ネットワークケーブルを敷設する必要がない

LANとして、無線LANがある。IEEE802.11という規格のものが中心で、その中でも1Mビットの速度の製品と2Mビットの速度の製品が多く出ている。まだまだ高価なうえに速度が十分とはいえず、同時に利用できるユーザー数の限度もあって、現状ではそれほど導入数は多くはない。しかし、ここにて低価格な無線LAN機器も製品化されてきており、IEEE802.11ではさらに高速な規格も考えられているので、今後は普及が早まることが予想される。

(井上尚司)



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp